P-6
【実践】

巻き爪の改善や疼痛緩和に向けたアプローチ ～コットンパッキングを用いた２事例～

捧　裕子
脳神経センター阿賀野病院

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

コットンパッキングとは・巻き爪に対して爪の端にコットンを詰め込んで巻き爪の解消を図る方法です。

このようなコットンを詰め込んでいく作業を繰り返すと、巻き爪が解消します。１～3日毎にケアします。綿は詰めたままにします。

目的

巻き爪とは、爪甲の側縁が内側に巻き込んだ状態のことである。巻き爪には外力や足の変形などが関与し、廃用性の変化でもよく見かける症状である。当院は神経難病の専門病院で、入院患者の多くが疾患の進行期のため長期療養中であり、その中で巻き爪による爪周囲炎を合併する患者の対応に苦慮していた。

巻き爪により爪周囲炎を併発し、疼痛が持続していた患者に、巻き爪の対処方法であるコットンパッキングを用いることで、巻き爪が解消し、爪周囲炎の再燃もなくなった事例を経験した。今回、疼痛を伴う巻き爪へのコットンパッキングによるアプローチが患者の苦痛緩和に繋がった２事例について報告する。

方法

対象患者は巻き爪から爪周囲炎を発症し、疼痛を訴える神経難病で入院中の女性２名。

巻き爪に対して、爪の端にコットンを詰め込むコットンパッキングを実施し、巻き爪による疼痛、爪周囲炎の緩和を図る。

写真撮影、症例の紹介に関し本人の同意を得た。また、病院の倫理委員会で承認を得た。

事例1

78歳女性。多発性硬化症にてパルス療法を行った影響で、ステロイド性の糖尿病を併発しており、腰痛で鎮痛剤を使用して急性腎不全を併発した既往もあった。巻き爪から爪周囲炎を発症し、炎症と鎮痛が早急に必要な状況であったため、コットンパッキングを実施した。爪周囲炎は消失し、患者も爪の矯正を積極的に行うようになり、巻き爪は解消した。

ケア前に5分ほど足浴を行い、爪を柔らかくする。毛抜きで爪を広げてコットンを詰める。

１～3日毎にケアを繰り返すと、約7日で図のとおりに改善した。疼痛は消失した。

事例2

59歳女性。筋萎縮性側索硬化症で入院時より巻き爪があり、軽い爪周囲炎があった。全介助で車椅子移乗していたが、その際に疼痛を訴えており、コットンパッキングを実施した。巻き爪矯正までには至らなかったが、爪周囲炎は解消し、車椅子乗時の疼痛は軽減した。

かなりの巻き爪が高度で(爪端が完全に円形になっていた)、1か月後も改善しなかった。

コットンパッキングにプラスして、爪周囲の皮膚をテーピングを入浴後の爪が柔らかい時を狙い、コットンパッキングを継続した。

入浴後、毛抜きを使って、爪端を持ち上げ、保持。この状態でドライヤーで乾燥させた。

この状態を維持するために、爪周囲の皮膚をテーピングで固定した。

その後、疾患の進行により、車椅子移乗はできなくなり、靴を履くこともなくなった。巻き爪処置は断続的に継続し、2年半後にほぼ、巻き爪は解消した。

考察

巻き爪は爪周囲炎による疼痛を合併するため、対応が必要であるが、看護師ができる対処法は限られている。コットンパッキングは、他の器具を使用する手技に比べて矯正力は弱いが、爪周囲炎を回避することはできた。合併症はないことから、病棟でも簡便に実施できる方法である。

頻度の高い巻き爪ではあるが、難病と共に生きる患者にとって、疼痛を生じさせることから、一刻も早く除去してほしい問題である。苦痛に気付き、対応策を探すことで、患者に寄り添った支援を行っていきたい。